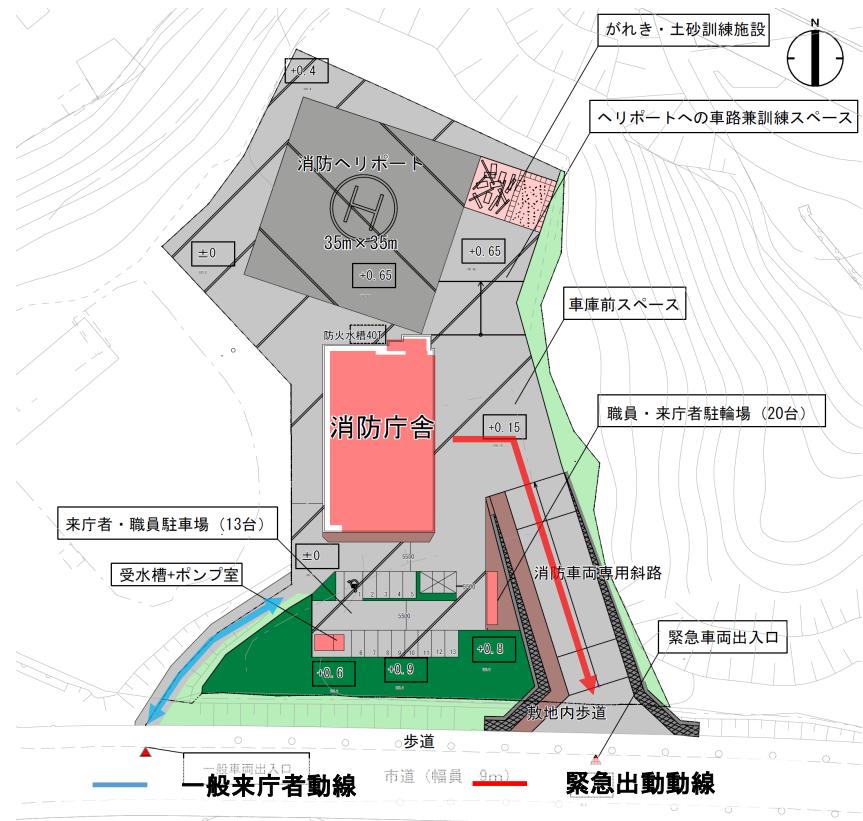


# 川西市消防本部 新北消防署の基本設計について

## 施設概要

- 敷地面積： 6,999.98m<sup>2</sup>
- 建築面積： 712.64m<sup>2</sup>
- 延床面積： 1,184.22m<sup>2</sup>
- 構 造： 鉄筋コンクリート造 地上2階建
- 階 高： 1階 5.5m 2階 4.1m 最高高さ： 12.95m
- 車 庫： ポンプ車 2台 タンク車 2台 救急車 2台  
指揮車 1台 積載車 1台
- 駐 車 場： 来庁者用 3台 職員用 10台 業務用 3台
- 駐 輪 場： 20台 ヘリポート： 1,225m<sup>2</sup>
- がれき救助訓練施設： 79.88m<sup>2</sup> 土砂災害対応訓練施設： 70.00m<sup>2</sup>
- 浸水想定区域： 外 土砂災害警戒区域： 外



## 開設までの主な日程（予定）

R6年度	R7年度				R8年度					
1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1月	2月	3月
実施設計										
建設工事（造成工事含む）										
竣工										
準備										
開設										

## 【外観イメージパース】



## 施設の特徴

### (1) 配置計画

- 敷地出入口を緊急車両用、一般車両用に明確に分けて配置することで、出動時の安全性を確保します。
- 訓練スペースを helipad に面して設けることで、平時は helipad を訓練スペースとして有効活用します。
- 車いす駐車スペースはバリアフリーに配慮し、メインエントランスに近い位置に計画します。

### (2) 耐震安全性

- 災害時においても防災拠点として十分な機能と役割を果しえる施設とするため、上部構造を剛強な鉄筋コンクリート造とし、基礎と建物の間に免震部材を設置して地震エネルギーを吸収することで揺れを低減させる免震構造とします。

### (3) ライフラインの途絶等に対応した設備

- 最低3日間分の受水槽の容量を確保します。
- 無線基地局などの重要室は、電力遮断時には非常用発電機により運転し、防災機能を確保します。

### (4) ヘリポート

- 災害時にヘリコプターが離着陸可能な防災対応離着陸場を整備します。

### (5) 火災対応訓練スペース

- 庁舎北側に一般住宅サイズのバルコニーや窓、階段などを設けることで、一般住宅火災を想定した実践的な放水訓練を可能とします。

### (6) がれき・土砂災害対応訓練スペース

- 重量物を多数配置することで、倒壊家屋から生存者を救出する際に障害となるがれきや梁、家具などの重量物をバールや木材などで持ち上げたり移動するための訓練を可能とします。
- 土のう用の砂置場を設けることで、土砂に埋没した要救助者の救出や、土のう作製訓練など土砂災害対応訓練を可能とします。

# 施設の特徴

## (7) 諸室の配置

### 【出動エリア】

- ①出動時間を短縮するため、防火衣ロッカーと指令装置などを集約した出動準備室を車庫に面して設けます。
- ②次の出動への備えを効率化するため、車庫に近い位置に資機材倉庫や救急消毒室、救急資機材庫などを設けます。
- ③庁舎内北側に職員用階段を設けることで、来庁者動線と出動動線が交錯しない計画とします。

### 【生活エリア】

- ④職員のプライバシーを確保するため、仮眠室は個室化します。女性専用室には、仮眠室2室、トイレ、シャワールーム、洗面所、ロッカー室を設け、出入口にはセキュリティ対策を講じます。
- ⑤最も出動頻度が高い先発救急隊の仮眠室を出動準備室に面して設けます。

### 【執務エリア】

- ⑥執務エリアと生活エリアを明確に区分し、業務従事と休憩にメリハリをつけることで、24時間勤務に伴う職員の負担を軽減します。
- ⑦「執務エリア」は一般来庁者が利用するため、エレベーターホールに近接した位置に配置し、一般来庁者が「生活エリア」「出動エリア」に立ち入らない計画とします。

### 【その他】

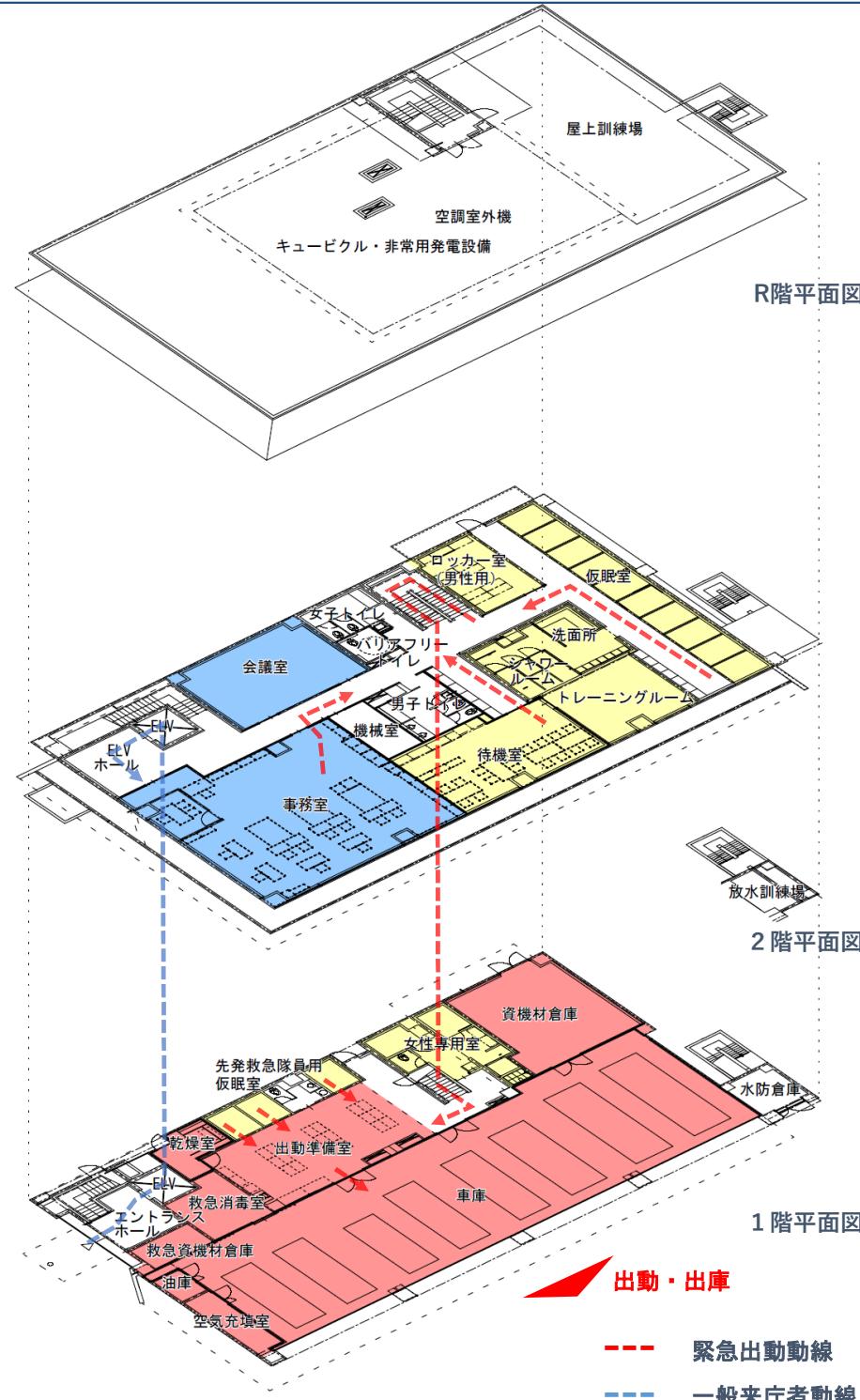
- ⑧車いす利用者に対応したエレベーターやバリアフリートイレを設けることで、来庁者の利便性を確保します。
- ⑨屋上階は設備スペースとする他、北側には屋上訓練場を配置し、有効に活用する計画とします。

## (8) 立面計画

- ①容易に窓掃除や施設のメンテナンスを行えるような立面計画とします。

## (9) 環境への配慮

- ①エネルギー消費性能の向上を図り、脱炭素社会の実現に寄与する庁舎計画とするためZEB (NearlyZEB,ZEBReady) を実現する計画とします。
- ②訓練で使用した水は再度訓練などで活用できるよう、防火水槽へ集積するよう計画し、水資源の有効活用を図ります。



### 【R階】

利用区分	室名	面積(m <sup>2</sup> )
その他	塔屋	19.48

### 【2階】

利用区分	室名	面積(m <sup>2</sup> )
生活エリア	仮眠室	36.90
	待機室	51.66
	ロッカー室（男性用）	22.59
	シャワールーム・洗面所	34.22
	トレーニングルーム	30.61
執務エリア	事務室	135.29
	会議室	47.13
その他	放水訓練場	7.20
	機械室	10.38
	トイレ、廊下、その他	208.32

### 【1階】

利用区分	室名	面積(m <sup>2</sup> )
出動エリア	車庫	273.82
	出動準備室	59.46
	救急消毒室	16.28
	資機材倉庫	49.76
	救急資機材倉庫	7.98
	空気充填室	10.00
	油庫	3.94
	乾燥室	10.25
	先発救急隊員用仮眠室	14.38
	女性専用室	30.15
生エリア	エントランスホール	15.00
	水防倉庫	9.75
	トイレ、廊下、その他	53.67

### 【付属建物】

利用区分	室名	面積(m <sup>2</sup> )
屋エリア	駐輪場	20.00
	受水槽・ポンプ室	6.00